



内服薬副作用対応表

副作用項目	服用を中止し病院に連絡する症状	服用中止症状まで至らないときの対応
骨髄抑制	38℃以上の発熱 主治医から発熱時に服用開始する抗生物質が処方されている場合は服用を開始してもらう。 服用開始したら、解熱しても処方日数分しっかり飲みきる。3日服用しても解熱しなかったら病院に連絡するように指導する。次回受診時、医師に抗生物質を服用したことを伝えるように指導する。 ※ 患者が医師より個別に発熱時の指示を受けている場合は医師の指示に従う。	
消化器症状	吐き気、嘔吐が続き、食事や水分が1日以上ほとんど摂れない	主治医が処方した手持ちの制吐剤があれば使用を促す(手持ちなければ必要時に受診し処方を受けるように勧める) 患者が作用機序の異なる制吐剤を2剤もっている場合は、まずは5HT3受容体拮抗薬から服用し、無効時にはそれ以外を服用してもらう。
口内炎	口内炎の痛みで食事が全くできない	主治医が処方した口内炎出現時に使用する軟膏・うがい処方薬があれば服用開始してもらう。 手持ちの口内炎治療薬がない場合は、必要時に受診し処方を受けるように勧める。 薬局で対応可能なケアを指導する。
下痢	水様便の出現が1日5回以上	緩下剤の定期服用あれば中止する。 主治医が処方した手持ちの止瀉薬・整腸剤があれば使用を促す(手持ちなければ必要時に受診し処方を受けるように勧める) 食事内容を見直してもらう。 (食物繊維、脂肪分の多い食べ物、乳製品、香辛料を多く使ったものは避ける)
手足症候群	初回出現時 手足の皮膚にはっきりとした痛みがあり、日常生活が制限される すでに症状があり、ケアしながら抗がん剤服用を継続している場合、急に症状が悪化した際は、上記に従う	外用剤の使用状況について確認をおこなう。 <保湿剤> 手・手洗いや水仕事のあとは必ず塗布足: 少なくとも1日2~3回は塗布 <ステロイド軟膏> 赤み・腫れ・痒み・痛み・ひび割れの症状部分には主治医からステロイド軟膏の処方がある場合は使用を促す。 手持ちの軟膏がない場合は、必要時に受診し処方を受けるように勧める薬局で対応可能なケアを指導する。
分子標的薬剤による皮膚症状	全身に湿疹・紅斑がひろがり、熱感あるいは水疱を伴う皮膚障害で日常生活が制限される	対応薬の使用状況について確認をおこなう。 ざ瘡様皮疹: (顔)ロコイド軟膏 1日2回 (体)マイザー軟膏 1日2回 (頭)リンデロンVGローション 1日2回 等 皮膚乾燥: ヒルドイドソフト軟膏 1日数回 (亀裂)マイザー軟膏 1日2回 等 掻痒感: (限局・局所)ロコイド軟膏 (全身・広範囲)フェキソフェナジン錠 2錠2×朝夕食後 等 爪囲炎:マイザー軟膏 1日2回 等 手持ちの対応薬がない場合は、必要時に受診し処方を受けるように勧める薬局で対応可能なケアを指導する。
間質性肺炎	息切れ、呼吸困難、咳(乾性)などの症状出現 (疾患にて同様の症状がすでにある場合は、服用開始後に症状悪化した時)	左記の症状が出現していないか確認する。
高血圧	我慢できない頭痛、悪心、吐き気、意識がもうろうとするなどの症状出現	左記の症状が出現していないか確認する。 家庭に血圧計がある場合は毎日血圧を測定し、記録してもらう。変化がある場合は、程度によって降圧薬を使用する場合があるので、医師へ報告してもらう。
出血傾向(粘膜・脳)	口から血を吐く、強い腹痛や頭痛などの症状出現	左記の症状が出現していないか確認する。
血栓/塞栓	身体が動かしにくい、ろれつが回らない、息切れ、めまい、胸が痛い、足がむくんだり痛みが出るなどの症状出現	左記の症状が出現していないか確認する。